

News Letter

ニュースレター

1 リハビリテーション専門職のための医療安全教育FDを開催

2024年12月21日、「リハビリテーション専門職のための医療安全教育FD」を開催しました。このFDでは、リハビリテーションの実践や教育の場において必要とされる医療安全に関する知識やスキルを、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の視点から紹介しました。

FDでは、最初に、齋藤貴之PSECセンター長が「ノンテクニカルスキルを中心にした医療安全教育」について紹介しました。その後、医師である和田直樹先生からは、リハビリテーション医療における安全管理、多職種連携と安全管理、リハビリテーション医療における感染対策について、また、宗宮真先生からは、リハビリテーション中止基準や急変時対応、疾患別状態変化について紹介しました。

後半では、リハビリテーション3職種からの講演が行われました。理学療法の分野では山上徹也先生が「転倒予防と拘束の弊害」について、作業療法の分野では李範爽先生が「作業療法における医療安全、医療安全コンピテンシー」について、言語聴覚療法の分野では酒井哲郎先生が「言語聴覚療法における医療安全、言語聴覚学科の医療安全に向けての教育」について紹介しました。

今回のFDには、全国各地からリハビリテーション医療従事者や養成校教員、職能団体構成員および学生約70名が参加されました。参加者の皆様からは、学部教育における医療安全教育の位置づけや具体的対策を知ることができたと好評でした。



PSEC FD Series 1

リハビリテーション専門職のための医療安全教育FD

2024/12/21 sat 13:00~16:30

開催形式：オンライン (Zoom)

参加費無料 申込不要

事前申し込みは Google Formから

https://forms.gle/1nqURHKEj6iboa8

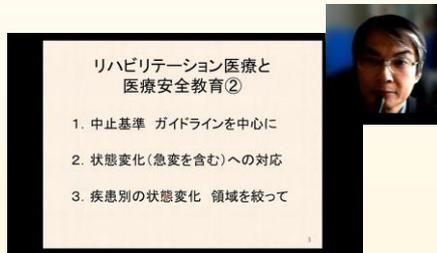
主催：群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター
共催：群馬大学医歯学部の医・歯・薬、理学療法研究科、言語聴覚研究科、作業療法研究科



リハビリテーション医療におけるQIの例①

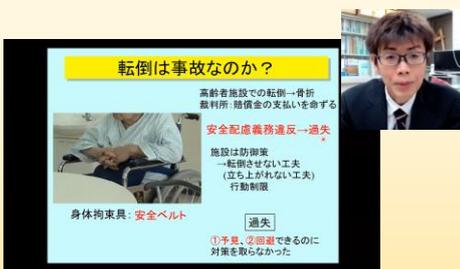
集中治療室における早期離床リハビリテーション実施率

目的	ICUにおける早期離床リハビリテーション実施率を向上させることで合併症を予防し、早期退室を目指す。
背景	ICU治療が必要な患者の増加に伴い、早期よりリハビリテーションが必要な患者も増えている。
目標	実施率を過去の平均以上とする。
質指標	分子：5mT 59+99実施率 分母：ICU入室患者数
PLAN	1. ICUスタッフに毎日1回、セラピストが出張し、当日より治療を開始する。 2. 毎日目標を行う。 3. 集学的アプローチのリハビリテーションに関する勉強会を開催する。 4. リハビリテーションの進捗についてフィードバックを行う。
DO	上記プランを実行する。
CHECK	質指標を測定し、毎年公表を行う。
ACT	目標が達成されなければ原因と改善策を検討しなおす。 目標達成後は標準手順として導入職員にも普及する。



リハビリテーション医療と医療安全教育②

1. 中止基準 ガイドラインを中心に
2. 状態変化(急変を含む)への対応
3. 疾患別の状態変化 領域を絞って



転倒は事故なのか？

高齢者施設での転倒→骨折
裁判所：賠償金の支払いを命ずる

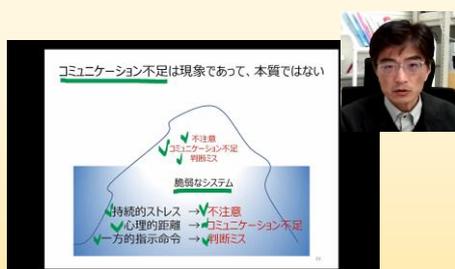
安全配慮義務違反→過失

施設は防犯策
→転倒させない工夫
(立ち上げられない工夫)
行動制限

身体拘束具：安全ベルト

過失

①予防、②回避できるのに対策を取らなかった



コミュニケーション不足は現象であって、本質ではない

脆弱性システム

不注視 → 不注意
心理的距離 → コミュニケーション不足
一方的指示命令 → 判断ミス



言語聴覚学科における医療安全教育

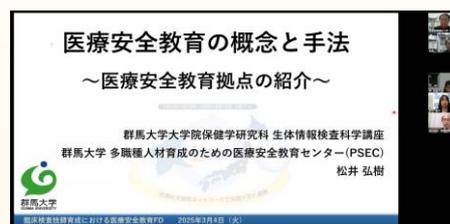
今年度で完成年度を迎え、また来年度よりカリキュラム改正になることから、昨今よりカリキュラムを検討し、医療安全教育については拡充を図る。

- ・ 目標：コミュニケーションと危機理解
- ・ 方法：専門的講義に加え、アクティブラーニングを主軸として授業構成を行う

2 臨床検査技師育成における医療安全教育FDを開催

2025年3月4日に「臨床検査技師育成における医療安全教育FD」を開催いたしました。本FDは「臨床検査技師における医療安全の取り組みと求められる教育」をテーマとして、群馬医療福祉大学の安部由美子先生、群馬パース大学の林由里子先生の座長のもと、医療安全教育や現場の安全管理に携わっている4人の先生方に講演をいただきました。まず、群馬大学の松井弘樹先生より、医療安全の一般的な概念、ヒューマンエラーに対する多職種連携アプローチの必要性、医療従事者がノンテクニカルスキルを修得する必要性と手法などについて講演いたしました。次に、群馬医療福祉大学の時田佳治先生より、臨床検査技師養成課程において医療安全教育がどのように変わってきたか、現在の医療安全教育の内容についてお話しをいただきました。また、桐生厚生総合病院の鈴木晶子先生から、病院内における医療安全の取り組みの実際、インシデントレポートの分析結果、検査室から発信する医療安全の取り組みについて講演をいただきました。さらに、群馬パース大学の萩原一美先生より、看護師における医療安全教育の実際、多職種連携の必要性、臨床検査技師を含めた職種間の心理的安全性の重要性などについて講演をいただきました。最後に、総合討論として、教育現場に対しての要望、インシデントレポート教育の重要性などについて討論いたしました。

本FDは、全国各地から医療安全教育に関心のある教職員や学生、約100名が参加されました。参加者からは臨床検査技師における医療安全教育の変遷、卒前教育でのインシデントに対する教育の必要性、医療安全教育に関わる人材のスキルアップの重要性、患者対応において看護師教育から学びを得ることの大切さなど、医療安全教育に関する様々な知見が得られたとのご意見をいただき、大変好評をいただきました。



医療安全教育の概念と手法
～医療安全教育拠点の紹介～

群馬大学大学院保健学研究科 生体情報検査科学講座
群馬大学 多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)
松井 弘樹

2025年3月4日 (火)

PSEC FD Series 2

医療安全教育に関心のある方、どなたでもご参加ください。

臨床検査技師育成における医療安全教育FD

【PSECについて】
群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)は、医療安全の最前線に立つ多職種人材の育成を目的として、チームワーク、コミュニケーション、リーダーシップ、シミュレーション、教育者としての医療安全意識を培うための教育の場として、医療安全の最前線に立つ多職種人材の育成に関心のある方、どなたでもご参加いただけます。

テーマ「臨床検査における医療安全の取り組みと求められる教育」

座長：群馬医療福祉大学医療技術学部医療技術学科臨床検査学専攻 教授 安部 由美子 先生
群馬パース大学医療技術学部臨床検査学専攻 准教授 林 由里子 先生

演：各講演 20分(質疑応答)

- 「医療安全」の概念と手法、医療安全教育の拠点の紹介(松井 弘樹 先生)
- 「臨床検査技師養成課程における医療安全教育の実際」(時田 佳治 先生)
- 「現場における医療安全の必要性、臨床検査技師に求められる医療安全の知識・スキル、教育現場へ求められるもの(松井 弘樹 先生)
- 「多職種連携における医療安全の実際、臨床検査技師に求められるもの(松井 弘樹 先生)

総合討論 20分

2025/3/4 Tue 18:00～20:00 **参加費無料**

開催形式：オンライン (Zoom)

事前申し込みは Google Formから
<https://forms.gle/qQ78hmCkQje8G9>

主催：群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター
群馬パース大学、群馬医療福祉大学
共催：群馬大学大学院保健学研究科 生体情報検査科学講座、安全学、医学教育研究センター
群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター
群馬県臨床検査技師会



3 医療安全学会で医療安全教育ワークショップを開催



2025年3月15日 第11回医療安全学会学術総会（ウインクあいち）において、田中和美副センター長を講師として『患者の視点を取り入れた医療安全研修「Patient Journey Mapping」を体験してみよう』を開催しました。

医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、ソーシャルワーカー等多岐にわたる職種から約60名の参加がありました。

患者視点のワークを体験していただき、「患者さんからみると、思ったよりも多くの医療従事者が関わっていることがわかった」「病棟だけでなくあらゆる場面に医療安全上のリスクが隠れていることを実感した」と学びにつなげていただけました。実施後のアンケートでも、新人研修に取り入れたい、中堅の再教育につなげたい、との声をいただきました。自施設への導入にあたっての相談希望もあり、患者の視点を取り入れた医療安全研修の普及につながるワークショップとなりました。



発行

多職種人材育成のための医療安全教育センター(PSEC)
<https://psec.med.gunma-u.ac.jp/>

